

事業計画書

事業名	育休ママ・働きたいママのためのリスタート応援セミナー
実施場所	オンライン Zoom
実施予定期間	※イベントや研修会等の当日だけでなく、準備期間・実績の取りまとめ期間等も含めて記載して下さい。 2021年 6月1日 ~ 2022年 3月 31日

◎事業概要

※事業の概要を100~200字で簡潔に記載して下さい(事業の紹介などで使用します)。

ひとりでも多くのママが、自分の可能性を信じて、仕事が好き、働くことが楽しいと思える、最初の一步を踏み出す、全4回のオンライン講座と3回のオンライン交流会です。

◎目的

※何を目的として実施する事業であるか(事業を行うきっかけ(地域の問題点や課題、社会背景など)や、課題解決のためにどんなことが必要と考えるか)を記載して下さい。

産休・育休と女性たちが子どもを産んで子育てをしながらでも職場へ復帰できる環境は整いつつあります。しかし復職までのソフト面でのサポートは企業・行政共に不十分であるのが現状であり、仕事・子育て・家事の負担は女性が大きく、不安と不満を抱えて仕事をしている女性が多いのが現状です。そこで、悩みながらも仕事を楽しんでいる現役ワーママの姿を見せること、子育てによって、スキルアップできている現在の自分を認め自信をもつこと。子育てしながらも自分時間を持って自分のやりたいことをやる時間管理テクニックを身に着けることで、復職・社会復帰後の仕事と子育ての両立の準備ができるスキルアップを目的としています。

◎実施内容

日 程	実施項目・作業項目
2021年 6月	※イベントや研修会等の行事日程だけでなく、実施内容(打合せ・会議・資料作成・参加者募集・準備・検討会)、実施場所、参加対象、人員配置、役割分担など、事業期間すべてにわたる実施内容を記載して下さい。 スタッフ打合せ(集客方法、準備物準備) チラシ等作成、配布
2021年 7月	キャリアコンサルタント、ワーママゲストと打合せ 参加者募集開始、広報、
2021年 8月	集客活動、参加者管理
2021年 9月	第1回講座 第2木曜日 キャリアコンサルタントが1,000人のママから聞いた！ リスタートお悩み解決座談会 第2回講座 第4木曜日 自分に自信をつける！子育てから得たスキル発見セミナー
2021年 10月	第3回講座 第2木曜日 1日15分書くだけで自分時間が3倍増える「ジブン予約」術セミナー 第4回講座 第4土曜日 現役ワーママとディスカッション！！ 楽しく仕事と子育てができるポイント教えて！！
2021年 11月~3月	LINEグループを作成する。LINEグループ内で悩みや質問等を気軽に話し合えるネットワークを作る。 また、オンライン交流会を3回実施していく。

◎事業効果

※事業の実施により、期待される効果を記載して下さい。

「仕事と子育ての両立」への自信が持てる未来の自分をイメージするためのプログラムにより、復職への心理的ハードルを下げ、復職を楽しみへと変える。また、復職するかどうか検討中のママも含め、復職後に直面するであろう様々な悩みを相談しあったり、情報を共有しあったりする仲間を得る場所として座談会を開催。「仕事と子育ての両立」と向き合うママ同士のその後につながる関係性（ネットワーク）を作る。

<p>成果指標</p>	<p>※事業効果を客観的に評価できるよう、具体的な数値等を用いて成果指標を設定して下さい。 復職に前向きになった人数を2/3以上出す。</p>	<p>指標の検証方法</p>	<p>※左記指標の検証方法を記載して下さい。 アンケート</p>
-------------	--	----------------	---

◎評価の視点に合致していることの説明 ※評価の視点については、募集の手引きを必ず確認して下さい。

<p>公益性 ・ 必要性</p>	<p>※公益性：地域のまちづくりの推進に如何に寄与できるのか、不特定多数の市民の利益にどうつながるのか等について記載して下さい。 ※必要性：事業を実施する意義や、本ファンドによる助成が有益で質の高い事業展開につながる理由を記載して下さい。 「仕事と子育ての両立」に不安を感じ復職を考え中だったり、復職しているが悩みを抱えていたりする子育て中のママのネットワークができる。 本事業によるママの復職支援（仕事と子育ての両立支援）は、安心して子どもを産み育てることができる環境づくりに繋がり、少子化対策への効果も期待できる。 地元で楽しく働くワーママがいることを知ることで、育休ママや働きたいママたちが自分の未来像をイメージできるため、復職率が上がる。女性活躍がまち全体の活性化に繋がる。</p>
<p>地域性</p>	<p>※地域の実状と課題をどう捉え、事業を行うことによってどのように課題を解決するのか、また、地域の特性や地域資源をどのように活かしたか、などについて記載して下さい。 沼津市の女性の労働力人口を見ても、今も変わらず30歳代を谷とし、20歳代後半と40歳代を後半が山になるM字カーブを描いており、結婚や出産を機に一度働くことを辞める女性が多く、子育てが一段落すると再び働くという女性が多い。女性の就業率が上がっているといわれているが、ほとんど非正規雇用。結婚・出産後も働き続ける女性は全体の25%。復職したい気持ちはあったが、「子育てとの両立は難しい」と考え、復職をあきらめた。という声はよく聞く。本事業により、子育てと両立しながら、復職を考えるママたちの社会復帰のための、心理的、技術的なソフト面のサポートを行うことで、子育てママの復職へのハードルを下げるができる。</p>
<p>先導性</p>	<p>※事業の新規性や独自性など、新たにチャレンジする点、工夫した点などについて記載して下さい。 女性の復職にあたり、ソフト面でのサポートができていた企業・行政の取り組みは少ない。復職・社会復帰後、会社で活躍できる女性が1人でも増えれば、その1人がきっかけとなり、企業・行政を巻き込み、子育てママが仕事をしやすいまちへと変わっていく可能性がある。 今まで行ってきた親子に向けた活動の中で、復職に関する母親たちの生の声を多く聞いている。本事業は、私自身の経験と、母親たちの生の声を受け、「復職をあきらめる前に、あったらいいな」と思った企画である。</p>
<p>発展性 ・ 継続性</p>	<p>※発展性：活動の広がりや波及効果がどのくらい見込め、地域の発展・活性化につながるのか記載して下さい。 ※継続性：本ファンドによる助成終了後も継続的・自立的な活動とするために、事業実施体制や活動資金の確保などどのように取り組んでいくのかについて記載して下さい。 今回の事業をきっかけに、子育てママ自身が、復職・社会復帰は明るい物だとイメージすることができる。職場で活躍する女性が増えれば、企業・行政を巻き込みながら、女性のみならず、夫婦で仕事・子育て・家事を協力し合えるような環境づくりへの発展が期待できる。 この事業の開催によりできたママ同士のネットワークが、復職するかどうか悩むママ～復職後のママの課題を解決する場として、役割を果たしていくことが期待できる。 この事業を継続していくための財源としては、企業からの協賛を募る、企業と</p>

	の連携、参加費を上げる、行政委託、などを考えている。
実現性 ・ 妥当性	<p>※実現性：事業目的と事業内容は合致しているか、実現のために事業内容、予算の積算、自己資金の準備、スケジュール等について工夫した点を記載して下さい。</p> <p>※妥当性：各種法令順守、関係者との調整状況、費用に対する事業効果の妥当性について記載して下さい。</p> <p>事業目的と事業内容は合致している。経費の不足分は参加費および自己資金で補う。スケジュールにおいても無理なく開催できる回数とし、地元ママたちを巻き込み、協力してもらいながら進める。</p> <p>すでに経験豊富な講師陣、ワーママゲストを揃えているので、とことん学び、繋がる事に特化し、スキルアップが期待できる。</p>
活動に 対する 熱意	<p>※活動の動機、活動に対する意欲・熱意について記載して下さい。</p> <p>私は、約8年前、第二子に産後休暇中に職場から退職を促され、意図しない退職を経験。悔しい思いを経験している。約2年半、yadorigiにて、ママたちの悩みを聴くと、意図しない部署異動で復職がゆううつ。仕事も子育てもひとりで行うのは不安しかない。そんな後ろ向きな声をたくさん聴いてきた。本当は仕事が好きだし、働きたい！という思いをもっているママたちばかりである。その思いに素直に行動できるよう、自分是可以！と信じる「自信」をつけてあげることが最初のスタート。子育てママがもっている可能性を社会で活かすことで、まち全体がもっと活性化することが私の思い。</p>

◎次年度以降の活動予定

※ソフト部門（ステップアップ型）新規または2回目の応募で、助成の継続（最大3年まで）を希望する場合は、今後の活動予定と事業継続のための戦略について記載して下さい（今回の応募が次年度以降の助成を約束するものではありません）。

女性が社会で活躍するためには、家族、特にパートナーの協力が不可欠である。

次年度以降は、女性のみならず、男性側も巻き込み、夫婦で復職や社会復帰に向き合い、夫婦のチーム力をあげる講座も企画していきたい。

また、今回の事業開催により見えた課題を反映した形で開催する。講座受講者から復職した人数を次年度の講座ゲストに招くことなども考えている。

この事業を継続していくための財源としては、企業からの協賛を募る、企業との連携、参加費を上げる、行政委託、などが考えられるが、どのように確保していくかについては、今後段階的に詰めていく。